

「第1回中之島アゴラ構想推進協議会」会議要旨

- 1 日時 平成28年11月17日(木) 午後3時00分から午後4時10分
- 2 場所 大阪市役所 市会第5委員会室
- 3 出席者
 - ・大阪府政策企画部長 山口信彦(代理:企画室長 吉田真治)
 - ・ " 商工労働部長 津組 修(代理:成長産業振興室ライフサイエンス産業課長 池田純子)
 - ・大阪市経済戦略局長 井上雅之
 - ・ " 都市計画局長 川田 均
 - ・大阪商工会議所常務理事・事務局長 児玉達樹
 - ・一般社団法人関西経済同友会常任幹事・事務局長 齊藤行巨(代理:会務執行部部長 金子秀一)
 - ・公益社団法人関西経済連合会専務理事 松村孝夫(代理:理事・事務局次長 阿部孝次)
 - ・国立大学法人大阪大学理事・副学長 小川哲生
 - ・ " 理事・副学長 吉川秀樹
 - ・中之島まちみらい協議会座長 香川次朗
- 4 議題
 - ・中之島アゴラ構想推進協議会の設置について
 - ・座長選任
 - ・今後の進め方について
- 5 議事要旨

議題1 協議会の設置について

異議なく承認

議題2 座長選任

中之島まちみらい協議会の香川座長より、大阪市の川田都市計画局長にとの提案
異議なく承認

座長あいさつ

川田) 中之島のまちづくりには、私が課長時代から長く関わらせていただいております、大阪大学との関わりとしても、阪大病院跡地に朝日放送にきていただく等、これまで中之島、大阪大学との関わりが結構あると思っています。都市再生の流れが平成13年頃からありまして、我々としては、大学が郊外へ流出しているということに対し、工場等制限法を是非廃止いただけるよう、長年取組んでいました。工場等制限法の撤廃後、これから大学を都心にもう一度呼び戻し、活力あるまちを企業、市民とともに作っていきたいということでこの間取組んできました。

このような中、今年の8月に大阪大学の西尾総長から市長と知事に対して、この中之島アゴラ構想のご提案をしていただき、非常にありがたく思っております。それを踏まえまして、経済団

体とともに産学官でこの構想を是非実現していけるように、市長よりしっかり検討するよう指示を受けましたので、こういう形で会議を発足させていただきました。

中之島につきましては、我々、新美術館を 2021 年度オープンを目標にしていますし、以前より、この中之島の地につきましては文化・学術の拠点という事で、できるだけそういったまちづくりを志向していこうという事で、これが端緒になっていくと思っています。

そういった中で、大阪大学を中心に、その英知を活かしながら、大阪市としては産学連携、大阪大学の言い方では産学共創、それと市民、企業を巻き込んだ社学連携、社学共創といった事で、大阪の価値を上げていきたいと思っていますし、ここにご臨席の皆様方の忌憚のない意見をいただきながら、少しでも実現するようご協力してまいりたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

議題3 今後の進め方について

川田) それでは、議題3の今後の進め方に入る前に、中之島のまちづくりや新美術館の検討状況、中之島アゴラ構想について、ご説明をいただき、これに関してご意見を賜りたいと思います。まず「中之島のまちづくり」について、事務局からご説明をお願いいたします。

事務局)【資料2により説明】

川田) ありがとうございます。今、ざっと見ていただければお分かりかと思いますが、気がつけば大阪市所有の土地がある4丁目と5丁目だけが開発が進んでいないところがありまして、4丁目はこの大阪大学のプランを中心に、それから5丁目に関しては、リーガロイヤルホテルの建替えもご検討中とのことで、関係地権者もこの4丁目のまちづくりの動きに非常にご関心をもっておられまして、我々としてはできればこういったものをうまく連動させながら、4丁目、5丁目というのが一体になるように進めていきたいなと思っております。

続いて、「新しい美術館の整備事業について」、大阪市経済戦略局より、ご説明をお願いいたします。

井上)【資料3により説明】

あわせまして、アゴラ構想の中で、世界のビジネスソースを集めまして、産学共創によるイノベーション人材の育成や社学共創拠点の形成についても謳われていますので、ここで、大阪大学と今まで取り組ませていただきましたグローバルイノベーションの創出支援並びに産学の連携について少し触れさせていただきたいと思います。

大阪市といたしましては、新事業・新産業の創出につきまして、うめきたナレッジキャピタルにおける大阪イノベーションハブを拠点に、グローバルに人材・情報・資金を引き込み、継続的にイノベーションの生まれる環境の構築に取り組んでいるところでございます。大阪大学とはプロジェクト創出や人材育成の面で連携しておりまして、今年の9月に阪大産学連携本部と大阪イノベーションハブとの共催により、ソーシャルビジネスに関するシンポジウムを開催させていただきました。

また、大阪市では産学連携による研究シーズの事業化を推進するため、大学と企業との共同研究に対する補助制度といたしまして、平成23年度よりイノベーション創出支援補助金を創設して進めております。大阪大学様にはこれまで、例えば「非侵襲による指先の毛細血管観察画像の測定システムの開発」等に補助金を交付いたしました。

この中之島の5丁目の方も世界的な MICE の拠点ということを目指しておられるとありますけれども、是非我々といたしましてもこのアゴラ構想と連携をいたしまして、文化・芸術・学術・美術の各領域におきまして、新たな社会的価値、創造発信の拠点を目指してまいりたいと思えます。新美術館との相乗効果によりまして、中之島の文化・芸術の拠点としての価値がさらに向上いたしますよう取り組んでまいりたいと思えます。

川田) ありがとうございます。もともと、中之島4丁目は、近代美術館構想がありまして、南側に市立科学館、それと今空き地になっているところが舞台芸術総合センターといった、文化・芸術のステージを作ろうということで、全体が文化、芸術というところで当時考えていました。でも、大阪の文化の集積のようなものを作っていくような必要があるということで、近代美術館は新美術館に変わっていますが、ミュージアムコンプレックスという思想は堅持しながら、そこに学術の要素を入れて、4丁目は少し姿を新しく変えていっているという経過がございます。

西尾総長からのご提案の中でアート拠点と我々との連携のようなものを特に考えていただいているのでありがたく思っております。それも含めまして、小川理事・副学長より「大阪大学中之島アゴラ構想について」ご説明をお願いいたします。

小川) 本日はこのような中之島アゴラ構想推進協議会に参加させていただきありがとうございます。大阪大学としても、うれしいと同時に身が引き締まるといいますか、気合いを今から入れていくといった心境でございますので、貴重なご意見をいただきながら、是非色々ご協力させていただきたいと思えます。【資料4により説明】

川田) どうも、ありがとうございます。それでは、これから意見交換に入らせていただきます。

社会学共創、産学共創を軸にアートの拠点という要素を入れてやっていただくという事で、私自身は産学連携の重要性を大変認識してございまして、やはり街の真ん中に出てくるという事は大阪市内の企業といかに近接性を活かしてやっていくかという点が非常に大事ですが、経済界から見て、この地での大阪大学を中心とした産学連携への期待というものがあると思えますので、その辺も含めて、本日ご出席の経済団体の方々にお話を聞きたいと思えます。まず、中之島まちみらい協議会、これはまちづくり全体を議論していただくので、必ずしも産学連携といった観点だけでなく結構ですが、香川様から。

香川) 中之島まちみらい協議会の座長をしております、関西電力の香川と申します。よろしくお願いたします。まず、大阪大学が今年の8月に中之島アゴラ構想をご発表になりました。本日のこの中之島アゴラ構想推進協議会がこういう形で立ち上がる事が出来ましたのも大阪大学をはじめ大阪府、大阪市等、行政の関係者の皆さまのご尽力によるものでございまして、改めて、この地の協議会としてお礼を申し上げたいと思えます。大阪市からの先ほどの説明と少し重複するところもあると思えますが、この中之島まちみらい協議会と言いますのは、中之島の地権者で構成されるいわゆるエリアマネジメント組織でございます。現在、会員・企業・団体が29者で構成されております。昭和62年に、中之島西部地区開発協議会という形でスタートいたしました。中之島の都市ビジョンの策定、あるいは防災とか環境保全の活動、そういったまちづくり全体を行っている協議会でございます。

先ほどご説明ありましたが、平成25年に都市ビジョンとして、エリアごとの特色を持たせたまちづくり構想を定めてございまして、大阪府・市と一緒に中之島のポテンシャルを活かしたまちづ

くりの実現に向け連携した活動をさせていただいているところでございます。

4丁目につきましては、このまちづくり構想におきまして、ミュージアムコンプレックスゾーンと位置づけております。大阪市新美術館が平成33年の開館に向けて計画が進捗するのに合わせまして、隣接地でアゴラ構想が立ち上がりこのエリアの魅力が一層高まる構想として私ども協議会として大変うれしく思っております。

まちみらい協議会には、大阪大学中之島センター様にも会員としてご協力いただいております。具体的には、平成26年より大阪大学のコミュニケーションデザインセンター様と一緒に、現在のCOデザインセンターですね、防災、環境、まちづくり、アートをテーマに、対話のプログラム、あるいはミニ講義付きの見学会など、地域連携型の取組みを一緒に行わせていただいております。

アゴラ構想では、社会学共創を主要コンセプトとしていただくともうかがっておりますので、従来の取組に含めて、より一層の幅広い地域の連携活動に関しましてまちみらい協議会といたしましても多方面での協議をさせていただき、ともに中之島のポテンシャルアップを図らせさせていただけたらと考えております。

今後ですが、4丁目の開発の動きが始動するに合わせて、5丁目あるいはなにわ筋線などのさらなる開発が遡及されていくものと聞いております。

アゴラ構想を中心に、学術・文化と高度な都市機能とインフラが融合して、国内はもとより国外からも多様な目的の機能集積、産官学の取組みによる相乗効果が生じることによってこのエリアが非常に魅力的で、競争力の高いエリアへさらなる発展の期待が高まっているものと受け止めております。中之島アゴラ構想推進協議会では、今年度中に基本方針を取りまとめられる予定という事ですので、関係者のみなさまとともに、私どもまちみらい協議会といたしましても可能な限り協力させていただきたいと思っております。

川田) ありがとうございます。関西経済連合会の阿部様お願いします。

阿部) 私ども、関西の経済連合会ということですので、本来、大阪だけのことだけではなく、関西全域のことを考える事に努めるべき団体ではあるのですが、うめきたと中之島については、特に強い関心をもっていますし、色んな検討を進めているところでございます。今日は、このアゴラ構想につきまして、もちろん事前に資料は拝見しておりますが、今日は先生の言葉で話をうかがって、非常にすばらしい構想だということを実感できてどうもありがとうございます。私ども、経済界ですので、最後に述べられましたリサーチクラウド・アライアンス、産学連携、あるいは人材育成、こういった事について一番強い関心を持ってございます。関経連といたしましても、ものづくりに関しまして、橋渡し機能を担うような支援機関のネットワーク作りですとか、あるいは健康医療に関しましては、関西健康・医療創生会議を立ち上げて、ものづくり、ヘルスケアの両分野につきまして、色んな産学連携に取り組んでおりますので、今後是非、連携させていただける事があればと思っております。

今の話を伺ってしまして、4つの知の文化・学術・芸術・技術この4つのキーワード、どこかで昔聞いたことがあるなと思っていたら、もう建設から30年経ちますが、京阪奈の学研都市、これが当初、文化・学術・芸術・技術とこの4つをとという話がありました。京阪奈は非常に広い土地に分散配置されている開発計画であるのに対しまして、このアゴラ構想は拠点でやるという事で、周辺には色んな企業もありますし、まさに4つの知の交流ということに、どういうふうにしていったら、これらが本当に相乗効果、複合的なものになっていくのか、今後ご一緒に検討させていただいたと思います。よろしく願いいたします。

川田) ありがとうございます。京阪神の中で、この中之島をうまく産学連携の拠点にする場合に、京都と神戸とどう繋げていくかと。後ほどの再生医療でもそうなのですが、この土地の使い方が関西にとって大事なかなと思っておりますので、その点をこれから引き続き議論させていただければと思っています。

それでは、大阪商工会議所の児玉様よろしくお願ひいたします。

児玉) 社会学共創、産学共創の拠点を目指すという構想に関しまして、今までの創薬とか医療機器の分野で大阪大学と密接に連携させていただいて、今まで産学連携やってきた大商としましては、都心にこういった拠点が構想されておる事、非常にうれしく思っております。それと、他地域に比べて、大阪の都心に大学が少ないと言われておりますが、中之島に、大阪大学の活動拠点が拡充されることは、大阪市内の中心部のにぎわい創出にもつながるのではないかと考えています。

大阪商工会議所では、従来から創薬や医療機器を中心に産学連携の一種のマッチング機能を果たしてきたわけでございます。来年度から、尾崎会頭が就任されて1年になりますが、尾崎体制でのビジョンをスタートさせるにあたり、さらに一層、産学連携を重視した内容のビジョンをスタートさせようとしております。その中で、この中之島構想を意識した活動を、我々として構築していけるかが大きな課題になってくると思います。企業では当たり前の事になっていますが、オープンイノベーションと言われておりますが、そのやり方というのも、異業種との連携や組織対組織の連携によって、オープンイノベーションを目指すようになってきており、従来のような、研究者1人と企業との共同研究から大分変わってきていると思います。

大阪商工会議所といたしまして、今までやってきた取組を発展させて、大阪大学とこのアゴラ構想ができることを前提としながら、まだ中之島に何も立ち上がっていない段階から大阪大学と一緒に新しいオープンイノベーションの取組を展開できればと思っております。

先ほど、京都・神戸の話がありましたが、医療機器、創薬の分野に関しては、現在既に神戸の会議所、京都の会議所と組みまして、国の特区に向けて、京阪神が一体となって取組んでいることを国に示すための会合をやっております。先日の会合では、京都、神戸、大阪の自治体にご参加いただいて、経済団体だけの取組みではなく、自治体も含めて京阪神一体となっている事を国に打ち出すための仕組みを作り上げてきておりますので、こういったものをうまく使いながら、中之島が新たな産学連携のイノベーションの拠点になっていくような方向付けができればと思っております。

川田) ありがとうございます。ちょっと脱線するのですが、今、児玉様の産学連携のお話で、この間、京都大学と大阪大学と神戸大学の3大学のシンポジウムで、産学連携のありかた、総長、学長のお話の中で、企業側のトップの方のご意見で言うと、企業側は単独の企業だけの力ではいけない、企業間においてもオープンイノベーションで連携するとのことでした。大学も今回のリサーチクラウド・アライアンスは大阪大学の中の分野を色々と融合化、一元化していくという事なのですが、他の京都、神戸大学の研究機関とのさらなるネットワークなど、大学間もネットワークという大きな意味の京阪神の産学連携の可能性があるのかなど、その辺も追求できれば非常にいい話になるのかなと。

小川) 先ほど、リサーチクラウド・アライアンスで出てきた、大阪大学の研究所の中には、5つほど

の全国の共同利用、共同研究施設に認定されているものがあります。要するに大阪大学のリサーチクラウド・アライアンスに繋がることで、一気に全国と繋がれる。ほとんどの研究所が海外との研究拠点とのネットワークを既に持っていますので、リサーチクラウド・アライアンス、大阪大学と繋がる事によって、日本全国、あるいは世界と繋がるいわゆるハブ機能をもたせることができると思っています、そういう立ち位置での大阪大学の使い方も是非アピールしていきたいです。

川田)非常に心強いご発言いただき、ありがとうございます。

それでは、関西経済同友会の金子様。

金子)まずは、大阪大学が中之島アゴラ構想を取りまとめられたことに敬意を表するとともに、大変感謝したいと思います。

豊中、吹田、箕面の、それぞれのキャンパスで進化させていった知を、この中之島にクロスさせて、新しい、文化・芸術・学術・技術の発信拠点として、アートや社会学共創、産学共創の拠点となる中之島アゴラとして進化させるというコンセプトは、大変素晴らしいものと思っております。

先ほども話にありましたように、世界に向けた社会的価値、イノベーションを創造すること、また、この中之島エリアのブランド化や市民が誇りをもてるものに注力されること、それからここは、うめきた2期、中之島5丁目など、後続するまちづくり活性化のトリガーとなること、そういったことは本当に社会的意義があるものと思っております。最初にお話しございましたけれども、中之島4丁目再生医療国際拠点検討協議会とも連携をしていくという事で、医療関連ゾーンとアゴラゾーンの連携を進めて、文化・医療の融合を進めていただければ、大変ありがたいと思っております。私ども、できることは限られておりますが、何か、構想への新しい知恵であるとか、あるいはこういったものを世の中に発信していくことで、何かお手伝いができるのであれば色々と考えさせていただきたいと思っております。以上です。

川田)ありがとうございます。

それでは、大阪府吉田様から。

吉田)阿部様とも一緒に会議に臨ませていただいて、昔、インテリジェントアレー構想という、都心部に大学の機能を集めて、知の交差点、拠点を作りだそうという議論をさせていただいた事を思い出しました。また、今日、大阪大学からアゴラ構想のご提案を、改めてこの場で聞かせていただいて、産学共創、社会学共創、そういった機能を大阪の顔である、うめきたもそうですが、この中之島、京阪神の中心でもあると思っておりますので、そういった場にこういった構想を実現できる環境づくりというか、構想を実現していくために、府としてもどういった事ができるのか、これからも議論させていただけたらと思っておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

川田)予定の時間をオーバーしておりますが、何かほかにご意見ございましたら。

それでは、意見交換につきましては、一旦ここで閉めさせていただきます。

それでは、事務局の方から今後の進め方について、説明をお願いします。

事務局)【資料5により説明】

川田) 進め方ですが、本日の大阪大学からのご説明を受け、それぞれ、経済界なり、協議会の企業の目線から見た時に、産学共創、社学共創の中で特に、大阪大学に、この部分についてプライオリティを高くやっていただきたい部分とか、リファインしてもらおうほうがもう少し企業として産学連携やりやすいたとか、会員の企業の方々から声を吸い取っていただき、我々にご提示いただくと少し整理していけるのかなと思っています。

それと、大阪大学におかれては、本日、小川理事からお話ありましたけれども、プランの濃淡はあると思われるし、文化動態論や、適塾・懐徳堂といった具体的なお話もされておりましたが、まず第1歩、第2フェーズ、第3フェーズと多分、時間軸に沿った話もあるのかなと思っていますので、その辺を少し、具体的に詰めていただき、我々もディスカッションさせていただき、次回は具体論に踏み込めればと思っていますのでよろしく願いいたします。

では事務局に進行をお返しします。

事務局) ありがとうございます。それでは、これもちまして、本日の議事を終了させていただきたいと思います。次回の日程につきましては1月頃を予定しておりますので、また、あらためてご連絡させていただきます。本日は誠にありがとうございました。なお、引き続き中之島4丁目市再生医療国際拠点検討協議会を行います。若干この会議延びましたので、16時20分よりご出席の皆さまにつきましては、時間までにお集まりいただきますようよろしくお願いいたします。